

平成29年度 第2回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

<「福井県 教育に関する大綱」に基づく新年度の主要施策>

- 発達障害のある子どもへの支援など、生徒一人一人の性格を把握し、きちんとした指導を続けてほしい。
- 学校や教員、子どもだけでなく、地域全体で学校を運営することが大事である。
- 外部人材を適切に使って、教員がさまざまな分野に専念できるようにすることが大事。これらの人材と折々に意見交換して、お互いに意思疎通を図ること。
- 大綱は総合的な学力について配慮されている。方針に沿って着実に進めること。

<地域と連携した学校体制の強化>

- 月80時間を超える時間外勤務者が中学校、高校で3割いる。時間外勤務を減らす努力をすること。
- 学級編成の合理化など、全体として教員が力を発揮できるようにすること。
- 校務支援システムの使用自体が、現場の負担になるかもしれない。運用後もしっかりフィードバックして、システムを改善すること。

<小学校における英語教育の推進>

- 教員の負担を少なくする支援が必要であり、導入後も現場の声を反映させ、改善していく仕組みづくりが大切である。
- 単なる受験対策の英語ではなく、使えることばの学習という観点から、「話せる」英語を身に付ける指導を行ってほしい。
- カタカナ英語など、日本語と英語の違いから国語を教えていくと、児童も興味を持つのではないか。

以上